



発信 No.2021-2

2021年4月9日

学校法人 大正大学

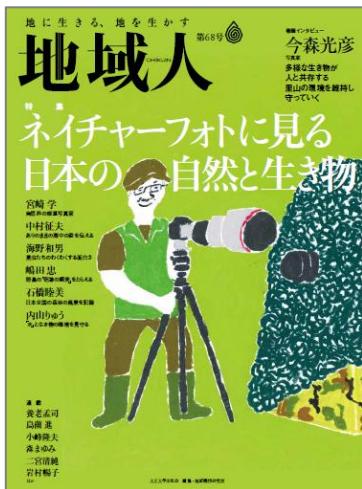
地域創生のための総合情報誌『地域人』第68号

特集「ネイチャーフォトによる日本の自然と生き物」

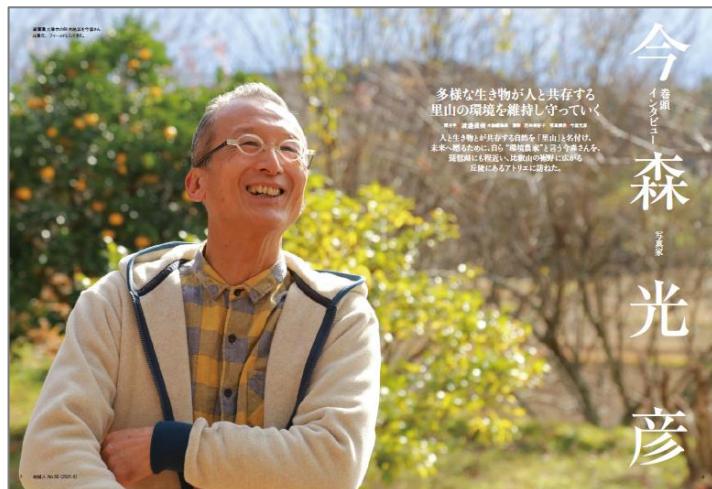
日本を代表する写真家6人が集結！4月10日発売

大正大学(学長：高橋秀裕、所在地：東京都豊島区)では、地方創生のための総合情報誌『地域人』第68号を4月10日に発売します。

今月の特集は「ネイチャーフォトによる日本の自然と生き物」。昨今、地球環境の保全、自然との共生が人類共通の目標となっています。高度情報化社会に住む私たちは“美しい”といわれてきた日本の自然のありのままの姿を、いったいどれほど知っているのでしょうか?森、川、海、そこに住む動物、虫、魚、そして人間の営みを、長年にわたり見守り続け、撮影してきたのがネイチャーフォトグラファー(自然写真家)です。日本を代表する6人の写真家がファインダーを通して、自然と生き物と人間の在り方を見つめなおします。



『地域人』第68号表紙



巻頭インタビューは、写真家で自らを環境農家と呼ぶ今森光彦さん

■概要

〈巻頭インタビュー〉 今森光彦(写真家) 聞き手 渡邊直樹(本誌編集長)

「多様な生き物が人と共存する里山の環境を維持し守っていく」

〈特集〉 ネイチャーフォトによる日本の自然と生き物

宮崎学 自然界の報道写真家

「動物の目線で、人間や人間社会を見つめてきた」

中村征夫 ありのままの海中の姿を伝える

「動物たちは人間よりはるかに危機管理能力に長けている」聞き手=吉村喜彦(作家)

海野和男 昆虫たちのわくわくする面白さ

「人間が考えつくようなことはすべて虫のなかにある」

嶋田忠 野鳥の「奇跡の瞬間」をとらえる

「鳥がいちばん美しいのは飛翔の瞬間。最初に出会った時の感動がすべて」

石橋睦美 日本全国の森林の風景を記録

「気候風土により、森の景観が異なりその多様性は目を見張るものがある」

内山りゅう 「水」と生き物の環境を見守る

「日本は「水の国」ですが、水に対して危機感がないのが問題です」



■特集内容（一部抜粋）



アザミに止まるアゲハチョウを近接撮影（海野和男）



アカショウビンがニホンザリガニを捕らえた瞬間（嶋田忠）

■媒体紹介

『地域人（chiikjin）』

2015年9月に創刊。地域で活躍する人々の前向きで積極的な“生”的情報を新鮮なまま毎月お届けし、ビジネスや生活に役立つことはもちろん、地域創生のテキストとしても活用されています。
発刊：月刊（毎月10日発売予定）／定価：本体1100円（税込）／発行・発売：大正大学出版会／編集：大正大学地域構想研究所／制作：大正大学事業法人 株式会社ティー・マップ／編集・発行人：柏木正博（大正大学専務理事）／編集長：渡邊直樹（大正大学客員教授）／部数：1万5000部／判型：A4変型／平綴じ／ページ数：本文104ページ／大型書店、ウェブ書店で発売中。電子版も発売中。<https://chiikjin.chikouken.org/chiikjin>

◆大正大学

大正大学は、設立四宗派の天台宗・真言宗豊山派・真言宗智山派・浄土宗および時宗が協働して運営する大学です。その協働の精神を支えているのが、大正15年（1926）の創立時に本学が掲げた、「智慧と慈悲の実践」という建学の理念です。建学の理念のもとに〈慈悲・自灯明・中道・共生〉という仏教精神に根ざした教育ビジョン「4つの人となる」を掲げて教育研究の活動を展開しています。また、令和2年度文部科学省「知識集約型社会を支える人材育成事業」に本学の推進する「新時代の地域のあり方を構想する地域戦略人材育成事業」が採択されました。公式HP：<https://www.tais.ac.jp/>

令和2年度 文部科学省「知識集約型社会を支える人材育成事業」採択校

「新時代の地域のあり方を構想する地域戦略人材育成事業」 大正大学
スガモで育む日本の未来。

■取材に関するお問い合わせ

大正大学 総合政策・広報課 志村

電話：03-5394-3025（直通）FAX：03-5394-3068

E-mail：kouhou@mail.tais.ac.jp